

2022年7月5日掲載 輸送経済新聞

物流下支え増収増益

DTHD 構造改革を継続し

ディー・ティー・ホールディングス(本社・山形市、武藤幸規社長)の2022年3月期連結業績は、売上高が前期比3・1%増の1068億6000万円、営業利益が同38・6%増の15億1100万円、経常利益が同52・6%増の13億3100万円。主要子会社の第一貨物の業績改善が寄与した。

主要子会社のうち第一貨物は増収増益。主力の特積み事業では荷動きがコロナ禍前の水準に届かない中、収入拡大に向け

た新規開拓や既存の拡販に取り組みとともに、コスト構造の変換へ業務内製化を推進し構造改革を行い、社員の採用競争力を強化して外注費を削減した。実際に集配ドライバーは純増した。一方、軽油価格の大幅上昇は利益圧迫要因となった。

ロジスティクス事業では、巣ごもりの需要が大口顧客の業績に好影響を及ぼし取引が好調に推移。第一貨物の売上高は727億3500万円(前期比3・0%増)、経常利益7億8100万円(同

6・17倍)となった。

部品不足で新車販売は減少

また、太平興業は営業活動の工程改善を進めた部品部門と整備部門で前年を上回る業績を確保したものの、主力事業のトラック・バス分野で半導体など部品不足に伴うX1カーの大幅減産により新車販売が減少したことが響き、売上高は262億2200万円(同1・4%減)、経常利益2億8000万円(同10・1%減)。

DTHDの当期純利益は、第一貨物の旧・東京支店売却益計上により105億5000万円(同6・36倍)となった。

(矢田 健一郎)